

『図書館ウォーカー:旅のついでに図書館へ』オラシオ著(日外アソシエーション刊)がある。

元図書館員の著者が「図書館をもっと身近なものに」をコンセプトに綴った、新たな図書館の楽しみ方のエッセイ集です。図書館を目的に行くのではなく、旅のついでに立ち寄ってみた全国の350館の中から、66館を選んで1冊にまとめています。

著者は、図書館が「地域密着型」であることに注目しています。基本的に地元の人が普段使いする公共施設で、その土地の空気感を味わいやすいので、美術館や博物館など外部の人向けの施設にはない魅力を感じています。

私も出かけた先で時間の余裕がある時は図書館を訪ねることにしているので、著者の言葉に納得の相槌を打ちました。

昨年10月、横浜市に行ったついでに大和市の文化創造拠点「シリウス」を訪ねました。小田急江ノ島線と相鉄本線が交差する大和駅の改札を出ると、目の前に「SiRiUS」のサイン。駅前から施設に続く通路は、明るい色のレンガを敷き詰めた、広々とした歩行者専用道路です。この道路も図書館の一部という雰囲気、「図書館城下町大和市」のキャッチフレーズにピッタリです。椅子やテーブルが置かれ、市民がおしゃべりや読書ができたり、イベントも開かれるようです。

歩くこと3分で6階建ての白いシリウスが現れます。

扉を開けて1階に入ると、新刊コーナー、暮らしに関する本、旅行関係本が並び、生活にすぐ役立つ資料が利用できます。奥にはメインホールやギャラリー、カフェもあります。

2階は「有料の市民交流ラウンジと一般開架(直接手に取って選ぶことが出来る書架)」です。

3階は「子どものフロア」で、子ども図書館のほか、げんきっこ広場、ちびっこ広場、保育室などがあります。

4階は「健康都市図書館」で、健康に関する書架、各種イベントを開催する健康テラス、ティーンズコーナーがあります。健康テラスでは毎日何かしらのイベントが、基本的に無料で開催されています。健康に限らず、ものづくり、コンサート等、多岐にわたるテーマで行われ、私が訪ねた日は歴史講座が行われていて、多くの方々が参加していました。

ここでは市職員やシリウススタッフのほか、市民も講師になり、「静かにしなければ」という従来の図書館の概念を越えて、こうしたエリアが周囲と隔たりなく配置されていることも、シリウスのユニークな点です。

5階は「調べて学ぶ図書館」で、ここは一転して静かで落ち着いた雰囲気です。参考図書を中心として、一般書架や読書室、情報検索コーナーが配置されています。

ここまでが図書館で、6階は講習室、調理室などを備えた生涯学習センターです。

このようにシリウスは図書館機能を中心として、芸術文化ホール、屋内こども広場、生涯学習センターなどを擁した「多機能融合型」の施設です。

私が一利用者の目線で感じたことは、大人と子どものフロアが分かれているので、子どもの利用者がのびのび過ごせているということ、静かに学びたい人にはその場所が保証されているということ、毎日行事が開催されていて、楽しみの場所になっていること、読書テラスの居心地がとてもいいことなど、長時間滞在できる図書館だと感じました。休日などに家族全員で訪れて、半日や一日を過ごしたい場所になっています。

住んでいる町で、ぶらりと気楽に出かけられる場所は、実は非常に少ないのではないのでしょうか。特に寒い季節が長い会津地域には、シリウスのような施設が必要だと考えています。長時間滞在できて、希望すれば託児サービスも利用できる。飲み物の持ち込みも可能で、「話し声厳禁」と咎められることもない。他方、静かに本を読みたい利用者は、読書室が設けられている。生涯学習センターのあるフロアには、歓談や食事ができるスペースがあり、書架から本を持ってきてもいい。

シリウスのようなこんな図書館があれば、住民の幸せにつながると強く感じます。

図書館は人が幸せに生きるために必要な場所だと、再認識させてくれたシリウス訪問でした。